

千葉県立  
56. 3.-9  
美術館

# みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL.7 NO.5

(通巻 29号)

昭和56年 3月 1日発行

編集・発行人 高橋 在久

〒 260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎ 0472-42-8311 (代表)



雪の中の小鹿 油彩 キャンバス 51.5cm×61.5cm  
ギユスターヴ・クールベ 1869年制作

## 美の根

五十五年度最終の企画展「現代カナダ版画家10人展」が一月十三日(火)から一月二十五日(日)の期間に、カナダ大使館共催により本館第四展示室を会場にして開催された。

わが国では比較的なじみの少ないカナダ美術ではあったが、参観者は、一点一点丁寧な鑑賞で、静かなうちにも或る種の熱気を感じさせた。

会期中、カナダ大使館のK・W・ルイス二等書記官及び作家のガストン・ブチ氏が来館し本館を視察、美術を通じての日加親善の一時を過した。

また、本館においては、本年度収蔵作品として、上掲の、ギユスターヴ・クールベ(一八一九-一八七七)の作品を収蔵し、近代美術館としての本館の姿勢にも、これまでに増して、国際性が加味されつつあるように思われる。



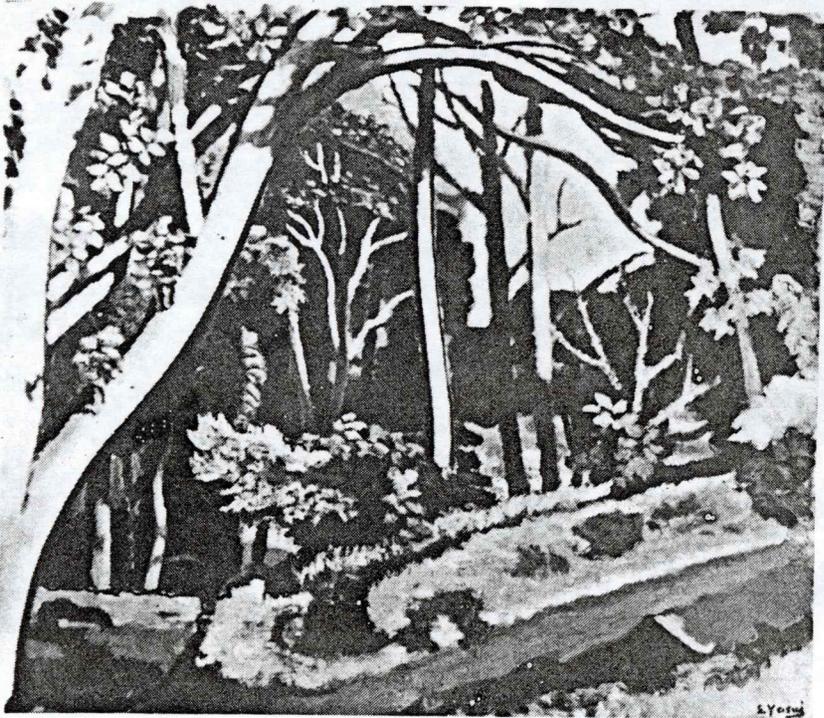
# 美術品取得基金での

## 第一回購入作品

### 初の基金活用

昭和五十五年四月一日から千葉県美術品取得基金条例が施行され、価値高く緊急を要する資料の取得が可能になった。もちろん通常の予算でも購入取得はしているが、このたび第一回購入作品の取得が行われた。

主な作品は、十九世紀フランスの写実主義の巨匠、ギヌスターヴ・クルルベ作「雪の中の小鹿」(本号表紙)、現代美術の巨匠、安井曾太郎作「熱海附近」など六作家十六点の作品である。



安井曾太郎「熱海附近」

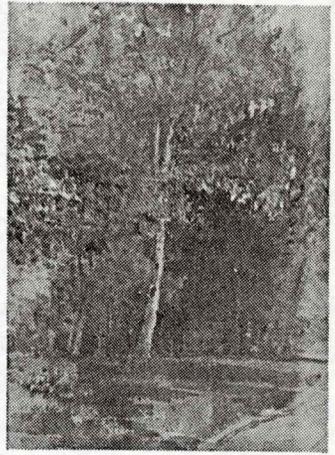
### 取得作品

以下は取得された、六作家十六作品である。  
ギヌスターヴ・クルルベ作油彩「雪の中の小鹿」  
安井曾太郎作油彩「熱海附近」  
浅井忠作水彩「フォンテンブローの森」  
中西利雄作水彩「曇り日の離宮と駅」  
石井柏亭作油彩「聖フランチエスコ寺院」、「老太太」、水彩「舞姫」、「舟に居る人」、「病児」  
小堀進作水彩「逆光」、「海(白浜)」、「霞ヶ浦」、「山」、「南欧の丘」、「冬晴の果樹」  
なお、ギヌスターヴ・クルルベ作「雪の中の小鹿」、安井曾太郎作「熱海附近」、浅井忠作「フォンテンブローの森」、中西利雄作「曇り日の離宮と駅」、石井柏亭作「病児」、小堀進作「逆光」の以上六点は、常設展として、展示している。

②



①



①浅井 忠「フォンテンブローの森」

②石井柏亭「病児」

③小堀 進「逆光」

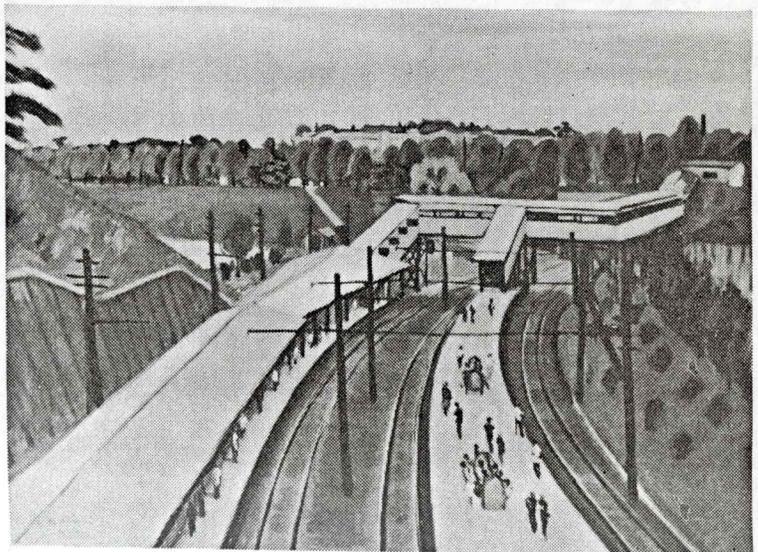
④中西利雄「曇り日の離宮と駅」

③

県民アトリエ棟が完成して丁度一年になるが、アトリエ周囲の外構工事が昨年十二月に着工された。この工事は、アトリエ棟荷

## 県民アトリエ外構工事進む

解室までの通路の整備と、植栽工事である。現在進行中でご不便をかけるが、三月中に完了する予定である。



④

# 美術館研究員会議開かる



る」ことに重点を置いて行われ、「展覧会の内容が、児童生徒に直結していなくても、作品(実物)にふれさせることは、理解・興味・関心のどの分野からとつても非常に意義がある。しかし、団体見学は現場の状況から種々の問題があり実施が困難である。」

など、貴重な意見が活発に出された。  
なお、研究員は左記のとおりである。

- 飯田 能弘(海上町立海上中学校教諭)
- 池田 伊予(千葉市立末広中学校教諭)
- 石倉 総子(千葉市立花園中学校教諭)
- 岩沢いづみ(千葉市立さつきが丘中学校教諭)

## 「高村光太郎、その芸術」展終る



講演する北川太一氏と満員の会場

特別展「高村光太郎、その芸術」は、一月六日(火)から二月六日(金)まで開催され、多くの方々のご尽力により、無事終了した。

寒い季節ではあったが、観客の出足も比較的良く、遠くは、智恵子の郷里(福島県二本松市)から来たという人もあつ

高橋 達(県立小金高等学校校教諭)

辰野 隆(銚子市立銚子西高等学校校教諭)

利倉 栄子(千葉市立天戸中学校教諭)

大木 貞夫(八日市場市立第一中学校教諭)

渡辺 真弥(拓殖大学紅稜高等学校校教諭)

萩原美登里(千葉市立新宿小学校教諭)

(順不同、敬称略)

た。特に日曜日、祝日は、県外からの電話問合せも多かった。展示品借用等で不可能ではあったが、もう少し暖い時期に開催できたならと悔まれる点もあった。

期間中行われた、美術講演会、美術を語る会とも、光太郎に因んで行われ、主催者側の予想を上まわる参加者であった。

### 美術講演会

特別展「高村光太郎、その芸術」に伴い、第三回美術講演会が去る一月十五日午後二時より「県民アトリエ」講堂において、講師に北川太一氏(高村記念会事務局長)を招

いて行われた。

当日は祝日とあって、高村光太郎展の会場には多数の見学者があつたが、講演会会場もほぼ満席の盛況であった。

講演会は、まず北川氏が高村光太郎を研究しようとした動機などについて話された後、光太郎の貴重な記録映画と録音された光太郎の声を紹介され、引き続き光太郎の生涯と芸術について講演された。北川氏の深い研究に裏付けされた話はわかりやすく、特に光太郎の芸術に対する考え方を示した論評「緑色の太陽」や詩は、配布された資料をもとに話され、参加された方々からたいへんわかりやすく有意義であったとの声が多かった。

### 美術を語る会

去る一月二十五日(日)、光太郎の芸術について、より理解を深めるための語り合い「第五回美術を語る会」が行われた。話題提供者は、東京国立文化研究所名誉会員・中村傳三郎氏と日本文学風土学会会員・鳥海宗一郎氏で、光太郎と房総のかかわりについて話題提供があつた。

本年度の美術館研究員会議(写真)は二回開催され、二回目、去る一月三十日(金)特別展「高村光太郎、その芸術」の鑑賞と研修を兼ねて、本館研修室において行われた。

二回にわたって「館運営上の諸問題」を中心に協議が行われたが、本年度は研究員の構成が小・中・高等学校の教職員から成っているの、特に、「学校教育との係わりの上から美術館のあり方を考え

# 情報資料室から

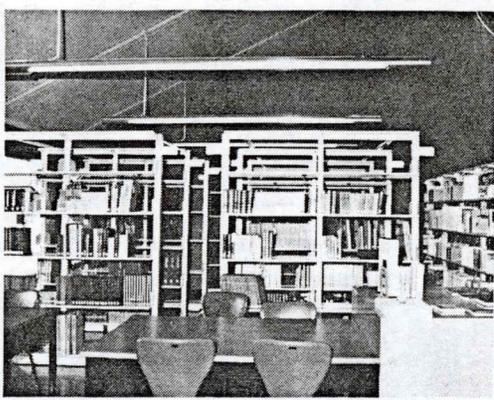
昨年十二月より今年二月にかけて情報資料室に書架を設置した。これにより一階には約三千二百冊、二階には約二千冊の図書が収納できることとなった。これに伴い座席数は、一階十席、二階十二席となった。但し、二階の一般利用については当分の間、資料整理のため未公開となるので、御了承願いたい。

現在、図書資料千二百二十冊、雑誌二十九タイトルの整理を終了している。今年度は二月一日迄に百三冊の図書を購入、順次整理中である。紙面の都合で全部を紹介できないが主なものは次のとおりである。

- 世界の巨匠シリーズ別巻
- 1、現代美術の歴史
- 2、印象派
- 3、フォーヴィスム
- 4、シュールレアリズム
- 5、ドイツ・ロマン派

- 世界素描大系 全六冊 (美術出版社) (講談社)
- 岸田劉生画集 全二冊 (岩波書店)

- 陶器大辞典 全六冊 (五月書房)
- 陶磁大系 全四十八冊 (平凡社)
- 近代日本の版画



情報資料室に設けられた書架

- 星裏一自選作品集 (三彩社) (阿部出版)
- 美術の歴史 (創元社)
- 縮刷新美術新聞71~77 (美術年鑑社)
- 芸術の日本 (美術公論社)

- 人物書誌索引 (日外アソシエーツ)
- 芸術・美術に関する10年間の雑誌文献目録 (日外アソシエーツ)
- 東山魁夷全集第2・10巻 (講談社)
- 奥田元宋画集 (実業之日本社)
- ルオーの「ミセレー」 (北九州市立美術館)
- 白樺派と近代美術 (東出版)
- 名作絵画にみる日本の四季 (読売新聞社)
- 日本名画家伝物故篇 (青蛙房)
- 女子美術大学八十年史 (女子美術大学)
- アーネスト・フランシスコ フェノロサ (中央公論美術出版)
- 全国書家名鑑 54年版 (芸林社)
- 日本美術年鑑昭和53年版

(東京国立文化財研究所)

整理済み雑誌のタイトルは次のとおりだが、欠号等の詳細についてはお尋ねいただきたい。

- アトリエ
- アサヒギャラリー
- アート・ビジョン
- 季刊浮世絵
- 季刊芸術
- 求美
- 教育美術
- 近代の美術
- 芸術新潮
- 月刊美術
- 月刊ビジョン
- 現代美術
- 国畫
- 三彩
- 墨
- 造形
- 中美
- 日本の美術
- 日本美術
- 博物館研究
- 版画芸術
- 美術文化
- 美術グラフ
- 美術ジャーナル
- 美術手帖
- 美術評論
- 萌春
- みづゑ

- 開設して半年が過ぎ、殺風景だった部屋も何とか資料室らしい体裁を整えてきた。しかしながら資料的には、質、量共にまだまだ不十分で、閲覧者の方々の期待に添えているとはいえない。理想的な資料室をめざして今後共同努力してゆくつもりであるが、皆様方にも次のことをお願いする次第である。

情報資料室をより充実させるため、美術図書、展覧会カタログ、美術雑誌などで御寄贈いただけるものがあれば、お知らせください。御協力をお願いいたします。

団体展 (3月~4月)

- ▽千葉展 2・17~3・1 無料
- ▽第12回千葉市民美術展覧会 3・3~3・22 無料
- ▽第28回書畫会教育部展 3・24~3・29 無料
- ▽第7回弥生書展 3・31~4・5 無料
- ▽第4回千葉新芸術展 4・7~4・12 無料
- ▽第18回全日本総合書道大展望会 4・14~4・19 無料
- ▽第4回等迦千葉支部美術展 4・21~4・26 無料
- ▽第8回千葉工芸展 4・28~5・10 無料
- ▽第8回千葉新協展 4・28~5・5 無料
- ▽第7回歩会彫刻展 4・28~5・10 無料

# 各種講座あんない

来年度の実技講座については、現在計画中であるが、確定し次第、館報、館内掲示板等によりお知らせする予定である。

本年度実施したデッサン入門講座、洋画入門講座、洋画研修講座、彫塑入門講座、陶芸入門講座、七宝焼入門講座、書芸入門講座、てん刻入門講座については、来年度も引き続き実施できる見通しである。そして新しく日本画、版画（エッチング）の講座についても実施できるよう準備中である。

しかし、各講座の日数についてはは多少の増減が考慮されている。

来年度の実技講座については、前述したとおり次号においてより具体的にできると思うが、次の各講座は、次号では締め切りに間に合わないと思われるので、受講希望者に混乱のないよう掲載する。

## ○デッサン入門講座

・期日 4月24日、25日

## ○洋画入門講座

・期日 5月上旬より6日間  
 ・講師 交渉中  
 ・定員 40名  
 ・締め切り 4月下旬

## ○彫塑入門講座

・期日 5月5日12、13日、19日、20日、26日  
 ・講師 交渉中  
 ・定員 20名  
 ・締め切り 4月30日

※期日については、やむを得ず変更する場合もあるの  
 で、あらかじめご了承いただいた  
 ください。

※申し込みは、各講座とも往復はがきに、講座名、住所、氏名、電話番号を記入し、美術館研修班あてご送付願いたい。  
 ※講師、材料費、日程等くわ

しいことについては、四月になり次第、電話等で研修班あてお問い合わせ願いたい。

## 葉美会展開かる

美術館友の会主催による葉美会展は、本年度を重ねること五回、年々その内容も充実してきた。

本年は、一月六日（火）から一月十八日（日）まで、本館第七展示室において開催された。一四五点の絵画が出品され、盛会裡に終了した。友の会会員のなかには、葉美会展のみならず県展にも出品、入選する方たちもいる。また、ボランティア解説員として活躍する方等、その活動の範囲も活発化している。なお、友の会では、来年度会員については現在受付中である。

## 講座・講演会等

3月7日（土）午後2時から美術を語る会  
 3月28日（土）29日（日）てん刻入門講座（二期）

## 来館者

11月	22	ソビエト舞踊団三十名
12月	2	上田市立博物館長他一名
1月	14	青森県総務部秘書課員他一名
	16	カナダ大使館員他一名
	23	広島県立美術館副館長
	30	群馬県議会議事事務局総務課員他一名
11月	30	美術を語る会 話題提供者篠崎輝夫氏
12月	30	美術を語る会 話題提供者篠崎輝夫氏
1月	13	七宝焼講習会（一期）始まる。14日まで。
1月	6	特別展「高村光太郎の芸術」始まる。2月6日まで。
1月	8	美術館資料審査委員会
1月	13	企画展「現代カナダ版画家10人展」始まる。1月25日まで。
1月	15	美術講演会 講師 高村記念会事務局長北川太一氏。
2月	25	美術を語る会 話題提供者 東京国立文化財研究所名誉会員中村傳三郎氏、日本文学風土学会 会員鳥海宗一郎氏。
2月	27	七宝焼講習会（二期）始まる。28日まで。

## 編集後記

本号がお手許に届く頃はすでに新年度予算も決定し、梅の花も盛を過ぎ、そろそろ桜の蕾も見られることであろう。本年度は一応本号をもって終了する。